



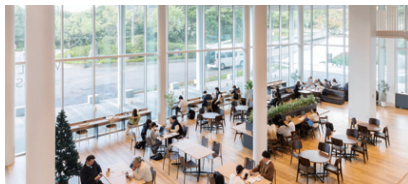
PICK UP 大学と地域の交流を育むウェルビーイングスクエアを備えた新校舎

(1) CBL (Community Based Learning)

地域の企業等との協働による学習活動であり、地域との協働で大学の教育目標を達成していく教育手法のこと。「地域ゼミ」は周南地域をフィールドとして、ゼミ生同士あるいは地域の協力者と協働して地域課題の発見・解決に取り組むもので、地域のウェルビーイングへの貢献、EQ（感情知能）力の発揮、実践的な課題対応能力の向上を地域との協働により目指す、CBLを体現する科目と言える。

(2) 専門職大学院情報科学研究科

西日本の公立大学として初めて設置された情報系専門職大学院。最先端の情報科学技術を高度に身につけ実務に応用できるよう、PBL（課題解決型学習）やケース・スタディなどアクティブで双方向の学びを活用したカリキュラムで、実践的かつ効果的に学べることが特徴。修了者には情報科学修士（専門職）の学位が授与される。



開放感のある commons



学生の経営するカフェ「Tierra」

“地域”を学びの舞台とし、
人々のウェルビーイングを高め
“世界”の課題解決に資する人材を育成しんじまさと
進士正人理事長・学長

1980年福井大学工学部卒業。1982年神戸大学大学院工学研究科土木工学専攻修士、1985年同自然科学研究科生産科学専攻修士（学術博士）。2026年4月から現職。

SUMMARY

1971年に公設民営大学の先駆けとして設立された私立徳山大学は、2022年に公立大学法人周南公立大学として生まれ変わりました。

「地域の成長エンジン」となることを大学の使命とし、2024年には3学部5学科体制へ改組。2026年には専門職大学院情報科学研究科を設置するなど、次々と大学改革に取り組んでいます。改革の目的は地域が抱える課題を解決し、人々のウェルビーイングを高められる人材を育成することです。港町の沿岸部から都市部、中山間地域、農村地域といった多彩で複雑な特徴を持つ周南地域こそが、世界の地域課題を学ぶ格好の研究・教育のフィールドになると進士正人学長は話します。

大 03

専門職大学院の修士論文は
企業等が実際に抱える課題の解決
学は、地域で働く社会人にも還元されています。2026年に開設した専門職大学院情報科学研究科

周南公立大学は、山口県東部地区唯一の4年制大学として約50年にわたり「知と地の拠点」としての役割を果たしてきた徳山大学の歴史と伝統を継承した公立大学です。2022年の開学以来、地域のウェルビーイングを高め、豊かなまちづくりに貢献する「地域に輝く大学」を目指し、教育・研究・地域貢献に取り組んでいます。

周南公立大学で学んだ卒業生たちの進路について、進士正人学長は次のように話します。

「周南公立大学としての第1期卒業生は、就職率100%を達成し、高い評価をいただくことができ、大変うれしく思っています。特に、大企業への就職者数が大きく増加しており、公立大学の卒業生として高い期待を寄せていただいていることを実感しています。一方で、地元企業からは『もっと周南公立大学の学生を採用したい』という声もいただいています。大企業への就職が増える一方で、地域で活躍する人材をさらに増やしていくことも、本学の重要な課題の一つだと考えています」

本学の教育プログラムの大きな特徴は、地域と協働して学ぶCBL（Community Based Learning）です。「周南地域と産業」「周南地域文化講座」では地域企業や各分野で活躍する有識者を講師に迎え、「地域ゼミ」では地域をフィールドとした課題解決型学習を実施しています。また、「キャリア形成活動Ⅰ・Ⅱ」では地域企業での就業体験やインターンシップを通じて、大学で培った知識や能力を実社会で生かす力を養っています。

「周南市の玄関口である徳山駅周辺は、瀬戸内海に面した美しい港町であると同時に、日本

なるものです」

全国から学生が集まる一方で、地域の子もたちに大学の知を還元することも、公立大学として重要な役割の一つです。そのため、本学では小・中・高等学校の児童・生徒や教職員を対象とした出前講座など、地域と連携した多彩な取組を展開しています。進士学長は、その取組について次のように話します。

「一般的には『高大連携』という言葉が使われますが、本学が目指しているのは『小中高大連携』です。例えば、硬式野球部や女子サッカー部など、全国大会レベルで活動する学生が、地域の子もたちを対象にスポーツ教室を開催し、技術指導を行っています。こうした交流を通じて、『将来は周南公立大学で競技を続けたい』という目標を持ち、学業にも励む子どもたちが育っています。大学の学びや魅力を地域へ還元し、その子どもたちが将来本学へ進学することで、人材の地域流出を防ぐことにもつながります。これもまた、地域のウェルビーイングの実現に向けた本学の重要な取組の一つです」

2027年度入試からは、新たな選抜方式として総合選抜（高大接続型）を導入します。この入試では、基礎学力に加え、探究活動や地域活動などの実績を評価するとともに、学科によっては事前に大学の講義を受けるため、オープンキャンパス等への参加を出願要件としています。周南公立大学の教育や研究に早い段階から触れ、本学への理解を深めたうえで、高い志を持つ受験生を受け入れることを目的とした入試制度です。

周 01

「知と地の拠点」
徳山大学の精神を継承

周南公立大学は、山口県東部地区唯一の4年制大学として約50年にわたり「知と地の拠点」としての役割を果たしてきた徳山大学の歴史と伝統を継承した公立大学です。2022年の開学以来、地域のウェルビーイングを高め、豊かなまちづくりに貢献する「地域に輝く大学」を目指し、教育・研究・地域貢献に取り組んでいます。

周南公立大学で学んだ卒業生たちの進路について、進士正人学長は次のように話します。

「周南公立大学としての第1期卒業生は、就職率100%を達成し、高い評価をいただくことができ、大変うれしく思っています。特に、大企業への就職者数が大きく増加しており、公立大学の卒業生として高い期待を寄せていただいていることを実感しています。一方で、地元企業からは『もっと周南公立大学の学生を採用したい』という声もいただいています。大企業への就職が増える一方で、地域で活躍する人材をさらに増やしていくことも、本学の重要な課題の一つだと考えています」

本学の教育プログラムの大きな特徴は、地域と協働して学ぶCBL（Community Based Learning）です。「周南地域と産業」「周南地域文化講座」では地域企業や各分野で活躍する有識者を講師に迎え、「地域ゼミ」では地域をフィールドとした課題解決型学習を実施しています。また、「キャリア形成活動Ⅰ・Ⅱ」では地域企業での就業体験やインターンシップを通じて、大学で培った知識や能力を実社会で生かす力を養っています。

「周南市の玄関口である徳山駅周辺は、瀬戸内海に面した美しい港町であると同時に、日本

地

02

地域のウェルビーイングに直結する
3学部5学科の融合した学び

域に根差した公立大学でありながら、志願者が全国へ広がっていることも、本学の大きな特徴の一つです。在学生の出身地を見ると、山口県出身者は約3割で、残りの約7割は広島県や福岡県などの近隣県をはじめ、全国各地から集まっています。特色ある学部・学科構成が評価され、多くの受験生を引き付けています。周南公立大学は、公立化から2年後の2024年に学部・学科の改組を行い、現在は経済経営学部（経済経営学科）、人間健康科学部（スポーツ健康科学科・看護学科・福祉学科）、情報科学部（情報科学科）の3学部5学科体制となっています。進士正人学長は、本学の学びについて次のように話します。

「本学の魅力は、3学部5学科をそれぞれ独立した学びとして捉えるのではなく、学部・学科の枠を超えて融合した教育・研究を展開している点にあります。例えば、人間健康科学部では、スポーツ健康科学、看護、福祉の3分野が連携することで、健康寿命の延伸に向けた運動方法の研究や、地域における医療アクセス格差の解消などにつながる研究を進めています。これらは、世界各地が抱える共通の課題の解決に寄与し、人々のウェルビーイングの向上にもつ

